

# 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム SATREPS が始動

## 私立大学として唯一の採択

外国語学部フランス語学科の岩崎えり奈教授が主導する研究課題が、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS サトレップス)」に採択され、今春から本格始動する。2023年度に61課題の応募から10課題が選ばれ、本学は私立大学として唯一の採択となった。

研究テーマは「エジプト西部砂漠のオアシス社会における住民の理解と参画を軸とした水・土地資源の持続的利用モデルの構築」。中東北アフリカ地域の社会経済を専門とし、同地域にお

いて15年間の研究実績を持つ岩崎教授がリーダーとなり、社会学者と自然科学者からなる研究チームが文理連携による独創的なアプローチでエジプトにおける水資源の課題解決に取り組む。本学が有するイスラーム地域研究所、アジア文化研究所、地球環境研究所など、複数の研究拠点を活用し、これまで培ってきた知見に基づき持続的・包括的なオアシス地域管理手法の提案を行う予定だ。

岩崎教授は「稀少な水資源の管理という課題は、日本人にとっても他人ごとではない問題。エジプト人研究者と



岩崎教授(左から3人目)とJICAおよびエジプト側カウンターパート

日本人研究者が協働して、オアシスの水資源を科学技術とオアシスの長い歴史で培われた知恵を組み合わせることで管理する仕組みを構築していくことを目指しています」と語る。

本プロジェクトを通して、現地住民と協働し、同地域の灌漑農地において拡大する塩害の抑制と土地の持続的利用に向けた新たな知の創造が期待される。



トークセッションでは第1回模擬AU参加者からのエールが送られた

局長のアフナ・エザコンワ氏が登壇し、若者世代のリーダーシップや国際協力の重要性について語った。最後に、第2回模擬AUの概要説明が行われ、模擬AU実行委員会の認証式が実施された。

閉会挨拶では、JICA理事長特別補佐の中村俊之氏が「若者が新たなパートナーシップを構築し、未来の課題解決に貢献してほしい」と呼びかけ、イベントを締めくくった。

## 第2回模擬アフリカ連合会議のローンチ・イベントを開催 各国の若者へ共創を呼びかけ

3月3日、本学は第2回模擬アフリカ連合会議(模擬AU)のローンチ・イベントを開催した。模擬AUは、アフリカ連合(AU)加盟国の協議を学生が各国代表に扮して議論するイベントで、上智大学、国連開発計画(UNDP)、国際協力機構(JICA)が共催している。

第2回模擬AUは「Inayojumuisha\*: 若者の共創、アフリカの未来を形作る」をテーマに、第9回アフリカ開発会議(TICAD9)に合わせて2025年8月に横浜で開催予定。若者の声のアフリカの未来を切り開く中心的な役割を果たすことが期待されている。

\*スワヒリ語で「包括的」「包摂的」の意味

今回のイベントでは、第1回模擬AUの振り返りや第2回模擬AUの概要説明が行われた。開会挨拶では暁道佳明学長が登壇し、続いて外務省アフリカ部参事官の村上顕樹氏が日本とアフリカの共創の重要性を語った。

第1回模擬AUに参加した学生らによるトークセッションでは、アフリカに対する固定概念の克服や日本とアフリカの若者が共創する意義が議論された。また、第2回模擬AU参加者に向けて「十分な準備と俯瞰的な視点を持ち、議論を深めてほしい」といったメッセージが送られた。

その後、UNDP総裁補兼アフリカ

## オーストラリア国立大との協働プログラム 移民、難民問題解決に向けて議論

2月12日~18日にかけてオーストラリア国立大学(ANU)との国際協働学習プログラム「オーストラリア・サミット・プログラム」が本学にて実施された。本プログラムは23年度にキャンベラで初めて実施され、本年度はANUから8人、本学から12人の計20人の学生が参加した。両国が直面する社会課題の解決と理想とする社会の実現に向けて、毎年異なるテーマに対して日豪両国間でコミュニケ(提言書)を取りまとめている。

今年度のテーマは“Migration, Refugee

and Asylum in the Asia-Pacific”。参加者たちは、世界が直面する移民、難民、亡命者の受け入れに関する綿密な事前学習を行ったうえで、両大学5つの学部の計8人の教授陣から講義を受講。国境を超えた多様な視点でテーマについての知見を深めると同時に、熱心な質疑応答やグループディスカッションを通して、両国における社会課題の洗い出しや意見交換を行った。サミット最終日の閉会式では、ゲストとして在日オーストラリア大使館から職員を迎え、各校から1人ずつ代表がコ



出入国在留管理庁職員からも講義を受けるなど、入念な事前学習を行った

ミュニケを表明したのち、両大学間で採択した。

参加者は「専門家の講義を受けてコミュニケを構築できたことや、異なる大学の学生と協力して多くのことを議論できたことはもちろん、交流を通じた文化の違いや共通点を学ぶ機会も得られたことは今後大きな財産になると感じた」と振り返った。



世界中から44校80人が参加

部史学科)が登壇し、本学の状況を踏まえた発表を行った。さらに、日本の高等教育機関の国際化の取り組みや展望について、文部科学省高等教育局参事官(国際担当)の佐藤邦明氏の講演が行われた。また、菊地功枢機脚の主司式のもと英語での特別ミサも執り行われた。

参加者は活発な議論を通じ、社会課題に対して大学が担う役割の重要性を再認識するとともに、新たな国際連携や協働の可能性を探る貴重な機会となった。

## 香港教育大学と修士レベルのダブル・ディグリープログラムを開始

本学大学院地球環境学研究科は、教育学分野で世界的に高い評価を受ける香港教育大学と連携し、修士レベルのダブル・ディグリープログラムを開始する。本プログラムに係る協定は昨年12月6日に締結されており、実際の学生派遣および受け入れは2025年度秋学期以降に開始される予定だ。

ダブル・ディグリープログラムは、協定先の大学と連携することで一定期間中に複数の大学の学位を取得できる制度。学生は、それぞれの大学への1年間の留学を通じ、両大学が定める所定の修了要件を満たした場合には、本学で環境学修士号、香港教育大学で教育学修士号の両方の学位を取得することができる。

本プログラムでは、環境学と教育学という異なる専門領域を融合させ、社会課題に対する新たなアプローチを追求する。持続可能な社会の実現に向け、多角的かつ学際的な視点で課題解決に取り組む人材の育成が目的だ。本学と海外大学とのダブル・ディグリープログラムは、イギリスのロンドン大学アジア・アフリカ研究学院(SOAS)との修士プログラム、タイのチュラロンコン大学との修士プログラムに続き、3校目となる。



香港教育大学で行われた協定締結の調印式

**フランツ・ヨゼフ・モール 名誉教授逝去**  
2月9日死去。96歳。1928年生まれ。61年上智大学大学院神学研究科神学専攻修士課程修了。55年本学文学部ドイツ文学科講師、58年本学外国語学部ドイツ語学科講師、73年同教授、94年外国語学部待遇教授、97年同特別契約教授。99年から本学名誉教授。

1971年~2004年上智学院財務担当理事、1984年~86年上智学院財務部長兼務、2004~05年上智学院顧問(財務)等を務めた。

著書に『ドイツの新聞のドイツ語』(三修社)、『Deutschland die Mitte Europas』など。専門は神学、哲学。

**岡田隆 教授逝去**  
2月22日死去。61歳。1963年生まれ。95年東京大学大学院人文科学研究科心理学専門課程(博士課程)修了。2008年本学総合人間科学部心理学科准教授、09年同教授。

2011年~13年総合人間科学部心理学科長、17~21年総合人間科学研究科委員長、21年より学術研究担当副学長を務めていた。

著書に『生理心理学：脳のはたらきから見た心の世界 第3版』共著(サイエンス社)、『臨床の質を高める基礎心理学』分担執筆(文光堂)など。専門は生理心理学。

## 国際イエズス会大学連盟の国際教育会議をホスト開催

2月26日~28日にかけて、International Association of Jesuit Universities (IAJU: 国際イエズス会大学連盟)主催の国際教育会議が四谷キャンパスで開催された。本学を含む、IAJUに加盟する教育機関44校から国際教育担当の教職員およそ80人が参加した。

IAJUは、アメリカのジョージタウン大学や韓国の西江大学などイエズス会を設立母体とする50カ国以上200を超える高等教育機関が加盟する国際的なネットワークである。本会議は、国際教育分野にかかる世界中の教育機関の知見の共有と議論の深化に加え、機関同士の連携のさらなる強化を

目的として、ホスト校を変えながら隔年で開催される。

初日には、IAJUのPresidentである議長ジョセフ・クリスティー神父による開会宣言の後、暁道佳明学長が「革新的なアイデアや優れた取り組みを共有し、各機関をつなぐ絆を深める機会にしてほしい」と歓迎の挨拶を述べた。

「国際化への挑戦と機会」のテーマのもとで行われた本会議のなかで、クリスティー神父ならびにAssociation of Jesuit Colleges and Universities-Asia Pacific (AJCU-AP: アジア太平洋・イエズス会高等教育機関連盟)会長であるロベルト・ヤップ アテネオ・デ・マニラ大学長による基調講演のほか、パネルディスカッションやレクチャーには本学から杉村美紀教授(総合人間科学部教育学科)や川村信三教授(文学